

第2974回 例会 令和7年8月28日(木)

出席委員会委員長	山下 民義
会員総数	19名
本日の出席者(免除者)	15名(2名)
本日の出席率	83.3%

会長あいさつ

会長 神谷 林 君

おはようございます。毎年、西脇住職にはお世話になります。今日は久しぶりに山門をくぐってきました。伊勢湾台風の時に昔の山門が倒れてしまいましたが現在のこの立派な山門は、今は亡き長田治さんが総代をされた時に苦勞されて作られたと聞いております。



今週のスマイル

親睦委員長 早川比呂太 君

神谷正康君 普元寺様、毎年お世話になります。
山下民義君 暑すぎますね。
笠井保志君 おはようございます。
鳥居萬里君 早朝例会、朝早いのは気持ちよいですね。
藤井知明君 早起きはいつもです。
池田宣明君 おはようございます。
神谷 林君/尾崎三枝子君/早川比呂太君/鈴木泰光君/
渡邊 徹君/池田榮三君/牧野美恵君/久米健史君

14件 20,000円

本日の卓話

早朝例会

普元寺 6時00分～

西脇顕真 住職

お釈迦様の生涯⑨四苦八苦～「愛別離苦」について



昨年は四苦八苦の中から「死苦」についてお話をさせていただきましたが、今回は「愛別離苦(あいべつりく)」——すなわち、「愛する人と別れなければならぬ苦しみ」について、お話をさせていただきます。

悲しくないお葬式はありません。けれど、過日は胸を締めつけられるほど、切なく辛いご葬儀でした。訃報を受け、枕経(臨終勤行)に急いで駆けつけると、

そこには、癌で娘さんを亡くされた年老いたお父さんの姿がありました。震える声で、こう仰いました。

「私が代わってやりたかったです」。その手は、静かに娘さんの髪を撫でています。「よくがんばったな…よくがんばった…」。ぽろぽろと涙が頬を伝い落ちていきます。そして娘さんの耳元に、やさしく語りかけました。「おじいさんとおばあさんがお浄土で待ってるからな。独りぼっちじゃないからな。お父さんもすぐいくからな…」その言葉は、悲しみと愛情、そして仏の教えに支えられた、深い祈りのように響きました。

どれほど深い悲しみの中にも、み仏の教えを聞き受けたものにはお浄土からの慈悲の光は、確かに届いている——そう強く感じさせられるご葬儀でした。こんな詩があります。

この盃を受けてくれ / なみなみと注がせておくれ
花に嵐のたとえもあるぞ / さよならだけが人生だ

これは、唐の詩人・于武陵の漢詩を、日本の小説家・井伏鱒二さんが意識した、有名な一節です。

若い頃は何となく聞き流していたこの言葉が、しみじみと心に響いてきます。歳を重ねるほどに、お世話になった方々や語らいを交わした友人たちが、ひとり、またひとりと先立っていけます。若い頃にはどこか他人事のように感じていた「さよならだけが人生だ」という言葉が、今では日々の現実として、胸に深く染み入ります。

そんな愛別離苦の只中にある私たちに、親鸞聖人が晩年に遺された「お浄土で、かならず、かならず待っているから」というお言葉が、あたたかな光となって、私たちの行く先を照らしてください。人は、いつか別れることを前提に、今、出会っています。だからこそ、今この出会いを愛おしみながら、盃を交わすように、ご縁ある皆さまと大切にお付き合いをしてまいりたいと、心から願っております。



8月の祝い

★会員誕生祝 鈴木泰光 君
★創業記念祝 小出道治 君
★入会祝 池田榮三 君
★出席100%家族協力賞 池田榮三 君